教職実践高度化専攻　カリキュラム・ポリシー

【教育内容】

学校教育に関わる高度な専門性と実践力をもち、学校教育における組織的取組や授業力向上、特別支援教育の取組をリードし、多様な教育課題に応えていくことのできる資質・能力を備えた人材を育成することを目的として、高度な専門的知識・技能を習得するための科目として、共通科目、専門科目、実習科目を次の通り役割を定義し配置する。

・共通科目とは、学校運営・教育実践・特別支援教育の各コースの専門性の基礎となり、かつ、教職修士の（専門職）の学位を有するものとして共通に必要となる知識・技能を身につけるための科目群であり、教職大学院に関し必要な事項を定める件（平成 15 年文部科学省公示 53 号）に準拠し、「教育課程の編成・実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」の５領域科目で構成する。

・専門科目とは、各コースの専門分野に関する知識・能力を身に付けるための科目群であり、学校運営コース、教育実践コース、特別支援教育コースの 3 コースの特色に応じ、学修の深化や関心の広がりを図る科目で構成する。

・実習科目とは、教育現場である附属学校園、連携協力校及び現職教員の在籍校等で実践・振り返りを積み重ねることを通じて、研究課題の探求からその解決までのプロセスを経る中で、高度専門職業人としての教員に求められる能力を育成する科目群であり、学校運営、学級経営、授業改善、特別支援教育をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験・考察し、学校の諸課題の解決に主体的に取り組むことができるよう「実習Ⅰ」、「実習Ⅱ」と段階的に配置する。

また、実践研究を深化させ学修を総括して研究成果報告書を作成することを指導するための科目として、総合実践力科目を次の通り役割を定義し配置する。

・総合実践力科目とは、共通科目・専門科目で修得した理論的な学びと、実習科目における実践的な学びを融合させるための省察活動を行う科目群であり、各コース別・キャリア別に「教育実践研究Ⅰ」、「教育実践研究Ⅱ」、「教育実践研究Ⅲ」と段階的に配置するとともに、共通科目・専門科目と「教育実践研究Ⅰ～Ⅲ」における学びを総合的に捉え、理論面・実践面の両面から分析・検証し研究活動報告書をまとめることを通じて学修を総括する「総合実践研究」を配置する。

【教育方法】

（科目履修）

高度な専門的知識を修得するとともに、実践的判断力や指導力を養成するために、授業は、アクティブラーニングなどを取り入れ、実務家教員と研究者教員によるチーム・ティーチングや少人数のゼミ形式で行うなど学習者の主体性を重視した授業を行う。

（研究指導）
　複数指導教員制のもと、カリキュラム全体をマネジメントし、院生の研究課題を中心に理論的な学びと実践的な学びを統合するとともに省察して実践研究を深化させる指導を行う。

【教育評価】
（学修評価）
　学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価規定に基づいて評価を行う。
　総合実践力科目の評価について、評価資料や研究成果報告書を基に、達成目標に則して評価を行う。
（カリキュラム評価）
　院生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価、意見を参照しつつ、6 年ごとにカリキュラム評価を実施し、改善を行う。